

科目名	人間の尊厳と自立						
科目名(英)	human dignity and self-reliance						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田浩明		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	社会福祉協議会にて 社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	介護・福祉の現場で働く専門職として、その職業倫理の基盤ともいえる人間の尊厳及び介護場面における利用者の自立支援について、そのことの本質的な意味を理解することによって、介護現場で「実践」として展開できる能力・資質を涵養することを目的として授業を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				介護福祉士が理解すべき人間の多面性を理解し、自身の言葉で説明・表現することができる。	
		○				人間の尊厳とは何かについて専門職が大事にしなければならないことを理解し、説明できる。	
		○				介護福祉士が利用者の自立を支援する意義及び求められることを理解し、説明できる。	
	○					介護現場における権利擁護について制度や予防体制等について理解し、説明できる。	
			○			自らの倫理観を高めるよう、自身の日常生活に良い影響を与え、行動を見直すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房テキストブック編集委員会 介護福祉士 人間と社会編 吉賀成子監修						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション～尊厳と自立をいかに学ぶか～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護における尊厳と自立について① ～GWにてイメージを掴む～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護における尊厳と自立について② ～イメージを具体化する～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	介護における尊厳と自立について③ ～自分の言葉で表現してみよう～「人間」の多面的理解～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み ～人権擁護と憲法～ (特別授業)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	「生きる」とはどういうことなのか (特別授業)				実習記録を事前に読み返しておくこと	
	7	尊厳のある介護、自立支援につながる介護とは? ～介護実習Ⅰを一人ひとり振り返る～				当該事件についての情報を把握しておくこと	
	8	相模原市 津久井やまゆり園の事件から考える障害者の命、人権				認知症の高齢者が被害者となる事件について整理しておくこと	
	9	子どもの貧困 ～子どもたちの環境にどんな変化が起こっているのか～				子どもの貧困について背景や各地の対策等について理解を深める	
	10	「ホーム」の回復をめざして NHKプロフェッショナル 絆が人を生かすから ～ホームレス支援 奥田知志さん～				ホームレスの現状や支援態勢について事前学習する	
	11	ココがズレてる健常者 障害者100人がモノ申す! NHK/バラバラ特番				障害者の人権について事前に調べておく	
	12	あなたは私の手になれますか?～小山内美智子のメッセージ～				障害者の人権について事前に調べておく	
	13	奪われた尊厳① ～元ハンセン病患者の隔離政策から人間の尊厳について学ぶ/DVD視聴～				ハンセン病の歴史について整理しておくこと	
	14	奪われた尊厳② ～元ハンセン病患者 詩人桜井哲夫さんの帰郷(ドキュメンタリー)～				ハンセン病の歴史について整理しておくこと	
15	講義まとめ ～資料整理、感想レポート作成～				配布資料をすべて揃え整理しておくこと		
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	授業感想(小レポート)	○	◎				20%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	人間関係とコミュニケーション(前期/通年)						
科目名(英)	Human Relation and Communication						
単位数	4	時間数	60	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	(前期/通年)	担当者実務経験	障害者施設 支援院 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	介護福祉士の国家資格取得のための要請科目の一つであり、対人援助職の最も基本となる人間関係とコミュニケーションについて基本的なことを学ぶ基礎科目である。この科目は、「コミュニケーション技術」に繋がる基礎科目であるが、コミュニケーションの技法等よりも、人とのコミュニケーションを阻む要因を考え、かつ自分自身の内面を見つめることを重視する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人間関係の基本となる知識や理論をできるようになる。	
		○				自分たちが置かれた社会や環境を理解し、自分自身の人間関係の形成に役立てられる。	
				○		自分自身のことを振り返り、自己覚知を深める。	
				○		他者と協力したり、コミュニケーションを円滑に図れるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	人の好き嫌い 負の感情の扱い方 <グループディスカッション>					
	3	人間関係について考える その1 集団の中での人間関係 <グループディスカッション>					
	4	人間関係について考える その2 人見知りとは損? <グループディスカッション>					
	5	自己覚知 その1 自信テスト・コンプレックスについて					
	6	自己覚知 その2 コンプレックスについて				次回までに、各自のコンプレックスについてのレポートを提出する。	
	7	自己覚知 その3 家族について考察する					
	8	人間関係の形成 その1					
	9	人間関係の形成 その2					
	10	自己覚知 その3 自分自身の家族について①					
	11	自己覚知 その3 自分自身の家族について②					
	12	自己覚知 その4 自分自身の家族について③				後日、家族についてのレポートを提出する。	
	13	コミュニケーション技法 その1 発達障害者への支援					
	14	コミュニケーション技法 その2 共感の技法					
15	総まとめ いじめ社会について考える <グループディスカッション>						
評価方法	前期はレポートを2回実施し、2回目を定期試験に匹敵するものとして評価する。その他、授業内の取り組み等も加味する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート(前期)	◎	◎		○	○	80%
	発表・作品	○	○		◎	○	20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	保健体育・レクリエーション(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子		
実施年度	2020年	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	レクリエーションインストラクター		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	人間は「自分らしく、より心地よく生きていきたい」と願う生き物である。その「願い」を実現するための『援助者』として、保健体育やレクリエーションの意義・役割を理解し、知識を学び、被援助者に適切な保健体育・レクリエーションの機会を提供することができるよう 事前評価―計画―実施―再評価の方法や、活動分析、アクティビティのアレンジについて知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		保健体育やレクリエーションが特定の人や時間に限定されるのではなく人権であることを知る。	
	○	○		○		人によって異なる心や体の課題を理解し、個々人に対し利用者分析を行うことができる。	
	○	○	○	○		個人への事前評価を基に、利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
	○	○	○	○		集団も個人の集まりであることを理解し、生活の快を追求するための集団援助ができる。	
	○	○		○		身の回りにある保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上あげることができる。	
テキスト・教材 参考図書	楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保健体育・レクリエーション概論 主旨・意義、手段、支援の目的			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	2	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	3	対象者の心の元気づくりの課題、心の元気と地域のきずな			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	4	支援の理論 信頼関係づくりの理論			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	5	支援の理論 良好な集団づくりの理論			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	6	支援の理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	7	リスクマネジメントの方法			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	8	福祉分野におけるレクリエーション援助過程			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	9	アセスメントと目標設定			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	10	支援プログラムの理解 個人援助と集団を介した援助			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	定期試験を実施する。60点未満は再試。なお出席が2/3に満たない場合は定期試験は受けられない。/ 成績評価基準はA(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下) /実技・演習・グループワークの意欲・参画態度も考慮し前後期総合的に評価します。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(前期)	◎	◎				70%
	実技試験(後期)		◎		○		70%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎		○		10%
	発表・作品	◎	◎		○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない者は 評価対象外とする。/ 実技・演習・グループワーク等に積極的に参画していない場合は減点の対象になります/ 調べたり考察が必要な宿題もあります。前向きに努力してください。						

科目名	介護概論(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院で介護職として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 1年生						
授業概要	介護福祉士の誕生した背景を理解し役割や求められる専門性を理解する。 今後の介護現場で求められる介護福祉士の専門性について知識を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士が誕生するまでの時代背景を理解できる。	
	○	○				介護福祉士の役割と機能を理解し、多職種との連携・協力の重要性を説明できる。	
	○					社会福祉士及び介護福祉士法について理解できる。	
	○					介護福祉士養成カリキュラムについて理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 -介護の基本 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 介護福祉士を知る				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	2	介護のなりたち—言葉、歴史				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	介護のなりたち—専門職が誕生した背景				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4	介護の概念の変遷—1970年代				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	5	介護の概要の変遷—1980年代				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	6	介護の概要の変遷—1990年代以降				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	7	介護福祉の基本理念				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8	介護福祉士の役割と機能—介護予防				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	9	介護福祉士の役割と機能—人生の最終段階の支援				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	10	社会福祉士及び介護福祉士法				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	11	社会福祉士及び介護福祉士法—諸規定				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	12	介護福祉士の義務規定				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	13	介護福祉士養成カリキュラムの変遷				授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	14	介護福祉士をまとめる団体				授業終了時に示す課題を行い次回授業時に提出すること	
15	介護福祉士をまとめる団体—日本介護福祉教育学会				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護福祉各論(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて介護職として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 1年生						
授業概要	介護を必要としている人の生活を理解し、専門職としてどのような支援が求められるのかを理解する。また、どのようなサービスを利用しどのような機関と連携して支援をしていくのかを学ぶ。介護の現場で求められるリスクマネジメントについて理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					私たちの生活とはどのように成り立っているのかを理解できる。	
	○					生活について理解し、生活ニーズとは何かを説明することができる。	
	○					地域連携に必要な機関、専門職について説明できる。	
	○					介護サービスの提供においてなぜ事故防止が必要なのか説明できる。	
○					感染症について原因、症状、対策が説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 -介護の基本Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 私たちの生活の理解				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	2	介護を必要とする人たちの暮らし				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし				社会福祉協議会職員からの講演	
	4	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし					
	5	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点				フィールドワーク(公民館)	
	6	「その人らしさ」とは何か。「その人らしさ」の背景				フィールドワーク(公民館)	
	7	その人らしさと生活ニーズの理解				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8	生活しづらさの理解とその支援				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	9	生活を支えるフォーマルサービスとは				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	10	生活を支えるフォーマルサービスとは(DVD視聴後グループワーク)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	11	生活を支えるインフォーマルサービスとは				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	12	介護における安全の確保とリスクマネジメント				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	13	事故対策のための対策(身体拘束について)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	14	感染症対策(介護福祉職に必要な知識)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
15	感染症対策(介護福祉職に必要な個別の感染症対策)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
発表・作品	○			◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術 I						
科目名(英)	Communication Technology I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護職員勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科						
授業概要	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者の家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護を必要とする人とのコミュニケーションの意味と役割を説明することができる。	
	○			○		介護現場で利用者およびその家族とのコミュニケーションを深めるための様々な技法を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己開示(1) 自己紹介					
	2	自己開示(2) 自己紹介					
	3	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の方言					
	4	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(1)					
	5	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(2)					
	6	介護におけるコミュニケーションの基本 コミュニケーションとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	コミュニケーション態度に関する基本技術(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	コミュニケーション態度に関する基本技術(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	言語・非言語・準言語コミュニケーション、利用者の感情表現を察する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	目的別のコミュニケーション技術、利用者の納得と同意を得る技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	相談・助言・指導の技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	利用者の意欲を引き出す技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	利用者と家族の意向を調整する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	集団におけるコミュニケーション技術、複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	①定期試験(筆記)を実施する。②グループワーク、発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・基本 I (前期／通年)						
科目名(英)	Life support technology Basic I						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	案納／吉水／平山／豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	NS(病院)／CW(特養)／CW(老健)／CW(病院)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活を支えるということがどのようなことかを説明することができる。	
	○	○				対象者に必要な支援・援助の方法を選択でき、介助することができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、休息・睡眠の介護(豆田)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	2-3	ベッドメイキング(豆田)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	4-7	自立に向けた移動の介護(豆田)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	8-9	体位変換(豆田)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	10-11	自立に向けた移動の介護(吉水)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	12-15	車いす、杖歩行、自動車への移動(吉水)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	16-17	自立に向けた身じたくの介護(案納)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	18-19	着脱介助(案納)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	20-21	自立に向けた身じたくの介護(平山)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	22-23	口腔ケア(平山)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	24-25	自立に向けた食事の介護(平山)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	26-27	食事介助(平山)座演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	28	実技練習				演習授業の内容を復習しておくこと(1時間)	
29	実技練習				演習授業の内容を復習しておくこと(1時間)		
30	実技練習				演習授業の内容を復習しておくこと(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習後演習記録の提出をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト						
	宿題・レポート		◎	○	○		10%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習 I (前期/通年)					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂	
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生					
授業概要	学生が主体的に、自己の実習の目標や課題を明確にし、介護実習を円滑に行うための知識や技術の習得ができています。実習後は実習の成果を学生間で共有できるようになる。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			○			実技試験に4回目までに合格できる
				○		すべてに出席できる
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる
				○		授業態度
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護実習・総合演習」 介護実習日誌					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	なぜ実習に行くのか意義・目的				
	2	実習先発表、自己紹介表記入				
	3	調べ学習				
	4	目標設定				
	5	日誌下書き				
	6	日誌清書				
	7	実習内容				
	8	実習の決まりごと確認				
	9	実習前審査リハーサル				
	10	事前挨拶／実習前審査				
	11	事前挨拶／実習前審査				
	12	お礼状／申し送り簿記入				
	13	報告会準備				
	14	実習報告会				
15	実習報告会					
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席していること 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	宿題・レポート	○	○			
	実技試験			◎	◎	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	医学一般						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	金弘子		
実施年度	2020	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて医師勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	人体の構造と機能及び疾病の基礎的理解をし、その内容を把握した上で、相談援助活動に役立つ知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		人体の構造について理解する	
	○	○		○		疾患について理解する	
	○	○		○		ICFの定義について理解する	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			授業の進め方について解説する		
	2	国家試験分析			国家試験で必要とされる医学知識について解説する		
	3	人の成長と発達・老化			人の成長と発達・老化について解説する		
	4	身体構造と心身の機能			身体構造と心身の機能について解説する		
	5	疾病の概要 悪性新生物			悪性新生物について解説する		
	6	疾病の概要 脳血管障害			脳血管障害について解説する		
	7	疾病の概要 心疾患・高血圧			心疾患・高血圧について解説する		
	8	疾病の概要 糖尿病と内分泌疾患			糖尿病と内分泌疾患について解説する		
	9	疾病の概要 骨・関節疾患			骨・関節疾患について解説する		
	10	疾病の概要 神経疾患と難病			神経疾患と難病について解説する		
	11	疾病の概要 終末期医療と緩和ケア			終末期医療と緩和ケアについて解説する		
	12	障害の概要 認知症			認知症について解説する		
	13	障害の概要 精神障害			精神障害について解説する		
	14	リハビリテーション・国際生活機能			リハビリテーションと国際生活機能について解説する		
	15	振り返りセッション			授業で生じた疑問や深く学びたい点について議論する		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。 (2)定期試験の(筆記)を実施する。 (3)グループワーク実施時の参加状況 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	認知症の理解(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
	○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	認知症とは何か① 認知症の定義と特徴				教科書を事前に読んでおくこと	
	2	認知症とは何か② 症状の全体像				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	3	脳のしくみ① 脳の構造・機能				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	4	脳のしくみ② 認知症における脳の変化				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	5	認知症の症状① 中核症状の理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	6	認知症の症状② 中核症状の理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	7	認知症の症状③ 生活障害の理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	8	認知症の症状④ BPSDの理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	9	認知症の診断と重症度				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	10	認知症の原因疾患 アルツハイマー型認知症と血管性認知症の比較				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	11	認知症の原因疾患 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 治療可能な認知症				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	12	認知症の原因疾患 若年性認知症				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	13	認知症の原因疾患の鑑別				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	14	認知症の治療薬と予防				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	15	認知症の基礎的理解のまとめ				前期まとめテストを実施するので勉強しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみ I (前期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	看護師として医療機関にて勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					生活支援技術の根拠となる人体の構造・機能と、関連した疾患や障害の概要を説明することができる。	
	○					疾患・障害に対応するために、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。	
	○					介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。	
		○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
			○			利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面について配慮し、ケアの際に実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2020						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護福祉士に必要な医学知識について-身体の部位と各部の名称			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	脳・神経系のしくみとはたらき①中枢神経			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	脳・神経系のしくみとはたらき②末梢神経			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	感覚器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	循環器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	呼吸器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	消化器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	泌尿器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	骨格系と筋肉系のしくみとはたらき①骨格系と関節の動き			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	骨格系と筋肉系のしくみとはたらき②筋肉系とからだの動き			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	生殖器系・内分泌系のしくみとはたらき①生殖器系と関連するホルモン			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	生殖器系・内分泌系のしくみとはたらき②内分泌系			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	血液系・リンパ系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	関連する役割、および薬の知識			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	学習のまとめと前期試験対策					
評価方法	前期授業の終了後に定期試験(筆記)を実施する。 総合評価の際には以下の評価を加えて評価する。 (1)授業の中で確認テストを毎回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)授業の中での討議・発表を行う。 上記の(1)(2)(3)については下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	討議・発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	欠席がが11回になった場合、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒 剛		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて臨床心理士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー1年						
授業概要	①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。 ②人の成長・発達と心理との関係について説明できる。 ③日常生活と心の健康との関係について説明できる。 ④心理的支援の方法と実際について説明できる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				心理学理論による人の理解とその技法の基礎的理解する	
	○	○				内容を把握した上で、相談援助活動に役立つ知識を身につける	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 心理学理論と心理学支援						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」					
	2	心理学への招待「心理学とその歴史」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと	
	3	心と個性「性格心理学」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	4	心と個性「さまざまな性格理論」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	5	人との関わり「社会心理学～同調行動、群集心理、ステレオタイプ」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	6	人との関わり「社会心理学～合理化、PM理論、社会的ジレンマ」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	7	心の育ち方「発達心理学～乳幼児期から思春期まで」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	8	心の育ち方「発達心理学～青年期から成人まで」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	9	心のしくみ「心と脳」「知覚・学習・認知心理学」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	10	心のしくみ「学習・記憶・思考」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	11	心のダメージ「臨床心理学の基礎」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	12	心のダメージ「さまざまな精神疾患」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	13	心のケアと支援「心理的支援の方法と実践～カウンセリング、心理療法、心理アセスメント」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	14	心のケアと支援「コミュニティ心理学～ケアと地域支援」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	15	まとめと復習				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。期末試験対策	
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術論 I (前期/通年)						
科目名(英)	Social Work Support Theory I						
単位数	4	時間数	60	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	(前期/通年)	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	社会福祉士・ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念、特にエンパワメント、ソーシャル・インクルージョン等に関して、またソーシャルワークの形成・発展史についても理解を深める。加えて、ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術を軸として、総合的かつ包括的な援助、権利擁護等を理解する。講義終盤は、貧困問題や生活保護問題等にも触れ、ソーシャルワーカーに求められる新たな社会的役割や求められる人権感覚を涵養する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ソーシャルワークの概要を説明できるようになる。	
		○		○		実際の福祉現場でソーシャルワークがどのように活用されているかを知る。	
	○					ソーシャルワークの歴史的経過を習得する。	
		○		○		ソーシャルワークの重要な理念と原則を体得する。	
テキスト・教材 参考図書	空閑 浩人 『新基礎からの社会福祉 ソーシャルワーク』 ミネルバ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	現代社会とソーシャルワーク ①引きこもりの青年への支援 ＜グループディスカッション＞					
	3	現代社会とソーシャルワーク ①引きこもりの青年への支援策					
	4	現代社会とソーシャルワーク ②こどもへの支援					
	5	福祉現場を知る ＜実習に向けて＞					
	6	ソーシャルワーカーの資格と仕事①					
	7	ソーシャルワーカーの資格と仕事②					
	8	ソーシャルワーカーの専門性と職能団体					
	9	利用者の理解と支援のあり方					
	10	ソーシャルワークの歴史①					
	11	ソーシャルワークの歴史②					
	12	ソーシャルワークの理念①					
	13	ソーシャルワークの理念②					
	14	ソーシャルワークの理念③					
15	ソーシャルワークと倫理						
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品				◎		20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	介護実習 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	40時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			利用者の個別性理解のためのコミュニケーション方法について、職員と利用者の関わりを見学し学ぶ	
			○	○		介護福祉専門職としての自覚を学ぶ。	
		○	○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる。	
		○		○		社会人としての基本的マナーが実践できる	
			○			指導者の指導を受け、メンバーと協力して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	指導者の利用者との関係性や施設の役割を知る				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	介護福祉士の役割について理解する				日々の実習記録の記載・プロセスレコード	
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	障害の理解(前期／通年)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4	時間数	60	担当者	田中優子		
実施年度	2020	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	病院で看護師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
			○			障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - 障害の理解 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2017						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害の概念と障害者福祉の基本概念・・・ICFについて理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	2	障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーションの思想				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	3	障害者福祉に関連する制度・・・歴史・サービス・法律の概要				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	4	障害者福祉と介護保険制度の違いや両制度の併用のしくみについて				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	5	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)	
	6	障害のある人の心理・・・人間の欲求や適応機制について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	7	肢体不自由の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	8	視覚障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	9	聴覚・言語障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	10	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ①				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	11	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ②				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	12	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ③				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	13	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ④				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	14	重症心身障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)		
評価方法	(1) 毎回ミニテストを行う。(2) 定期テスト(筆記)を実施する。評価はS(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						